

(別紙様式2)

普及指導員調査研究報告書

所属名：農林総合技術センター農業研修部

担当者名：宇佐川 恵

課題	オーキシシン剤の活用がメロンの果実肥大及び品質に及ぼす影響について							
1	調査研究チームの構成 園芸課 宇佐川恵、白石千穂							
2	課題の目的 メロンは食味に加えて大きさ、ネットの目の細かさ等の外観品質を重要視するため、肥大促進とネット形成の改善効果が期待できるオーキシシン剤2剤を用いてその効果を確認し、高品質生産を目指す。							
3	調査研究期間 平成24年3月から平成24年8月まで							
4	調査研究の対象地域・場所 農林総合技術センター農業研修部（農業大学校） ガラス温室6号							
5	調査研究方法の概要 (1) 栽培面積 200㎡(10.0m×20.0m) (2) 前作 トマト (3) 栽培概況 ア 使用品種 ア 赤肉メロン 妃春秋系（ウエキ交配） イ 緑肉メロン アールスセイヌ夏Ⅱ（八江交配） イ 栽培内容							
	月	3	4	5	6	7	8	
		○	△	▲▲▲▲		□□□□		
		3/12	4/27	5/21		7/16		
					○播種	△定植	▲交配	□収穫
	(10a 当たり施肥：N10kg、P10kg、K10kg)							
(4)	調査方法							
ア	調査区							
	(ア) アークランド妃処理区		(イ) アークランド夏Ⅱ処理区					
	(ウ) エルゴール妃処理区		(エ) エルゴール夏Ⅱ処理区					
	(オ) 妃慣行区		(カ) 夏Ⅱ慣行区					
イ	供試資材の使用方法							
	*各資材ともに交配から20日後、25日後の2回散布。							
	①アークランド液剤 果実にかかるよう株全体に動噴で散布。2000倍、200ml/株							
	②エルゴール乳剤 果実にかからぬよう上部のみに手動散布機で散布。 1回目1000倍、50ml/株、2回目1500倍、150ml/株							
ウ	調査項目							
	① 果実の縦径、横径 ②階級 ③等級 ④糖度							

6 結果の概要、成果（または中間報告）

(1) 果実の縦径、横径

アークランド処理区は、交配25日、資材散布5日後から縦径、横径に差が表れ慣行区より大きくなったが、品種間に差はなかった。
エルゴール処理区は慣行区と差が認められなかった。（図1）

(2) 階級

アークランド処理区は3L以上が夏Ⅱ65%、妃77%と大玉が多く、夏ⅡはJクラスが39%と果実肥大効果は顕著だった。
エルゴール処理区は3L以上が夏Ⅱ16%、妃36%と効果は低かった。（図2）

(3) 等級

アークランド処理区は両品種とも慣行区より秀品率が高い傾向にあり、夏Ⅱは秀品率8%だった。（図3）

エルゴール処理区は夏Ⅱ4%で慣行区より高かったが、妃は慣行区より劣っていた。

(4) 糖度

アークランド処理区、エルゴール処理区ともに夏Ⅱは慣行区より糖度2, 3度高い傾向だったが、妃は各区に差がなかった。（表1）

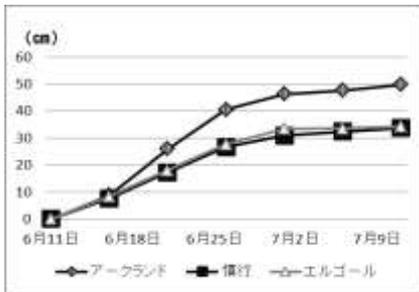


図1 夏Ⅱ縦径

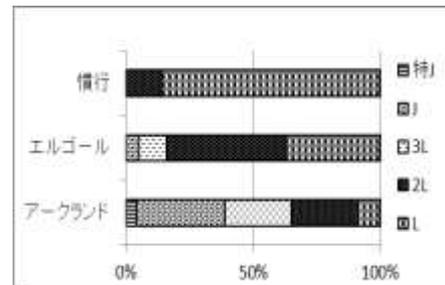


図2 夏Ⅱ階級

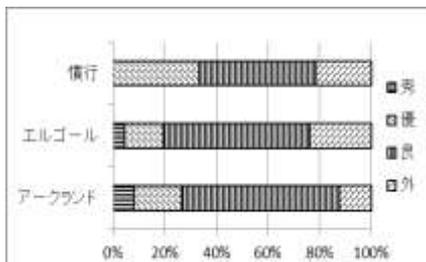


図3 夏Ⅱ秀品率

表1 糖度

	アークランド	慣行	エルゴール
夏Ⅱ	13.5	11.2	14.3
妃	12.5	12.6	12.9

7 今後の問題点

アークランド処理は、薬害で葉が湾曲して垂れ、通路の妨げとなる傾向があるため通路の確保に努める必要がある。

エルゴール処理は薬剤散布量が少ないため散布方法に工夫が必要である。また、葉が丸くなるなど薬害が認められるなど今回の試験では期待通りの効果を確認することができなかった。

8 普及活動上の留意点

今回の試験はガラス温室、ベンチ栽培での試験結果となるため、一般の地床栽培では更に検討が必要である。

※ 報告書は図表、写真等を含めてA4判で2ページ以内にまとめること